

## CASE STUDY

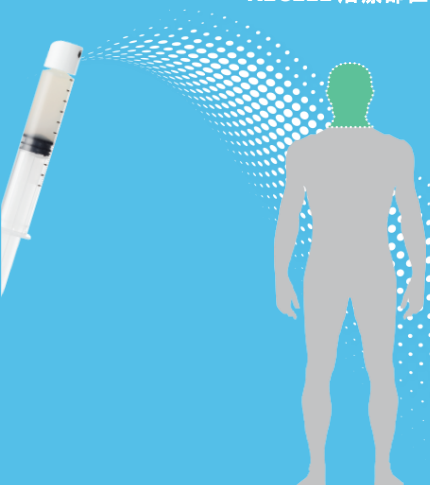
David G'sell, PA-C  
University Medical Center, New Orleans, LA

Jeffrey Carter, MD  
University Medical Center, New Orleans, LA

### 患者情報

仕事中の引火により、顔面、頸部、胸部、上腹部、両腕、両手に20% TBSAの混合深度熱傷を受傷した32歳男性。本症例報告では、顔面部と頸部の治療アウトカム及び16か月のフォローアップについて特に述べる。

### RECELL 治療部位



### 結語

本症例では、顔面部の深達性部分層熱傷および頸部の全層熱傷に対する Spray-On Skin Cells 使用による良好な長期アウトカムが示された。



### 治療法

VERSAJET<sup>™</sup> を用いて顔面部と頸部の創面環境調整を行い、Spray-On Skin<sup>™</sup> Cells 作成のため、RECELLを使用した。頸部の全層熱傷創には2:1網状分層植皮 (STSG) を移植の上、RECELLによるスプレーを行った。顔面部の深達性部分層熱傷創は、RECELL単独治療を行った。治療部位の被覆にはTelfa<sup>™</sup> Clearを使用し、4-0クロミックスーチャーで固定、その上からXeroform<sup>®</sup>、Kerlix<sup>™</sup>、ガーゼ及びACETMラップを使用した。二次ドレッシング材の交換は48時間毎に行なった。RECELL治療から6日後が経過するまでにTelfa Clearが浮いてきており、術後8日にその一次ドレッシング材を剥がした。

### 臨床的アウトカム

術後8日、顔面部の約99%が上皮化。RECELL治療から13日が経過するまでに色素再生の初期兆候が見られた。入院から16日が経過し、患者は退院。患者と医師共にこのアウトカムには非常に満足している。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

